

マコガレイ (本まこ)

生態的特徴等

【生態】

日本から東シナ海にかけて広く分布し、主な生息域は水深 100 m 以浅である。カレイ類では珍しく、沈性粘着卵を産む。稚魚期にはアミ類などを、成魚は主に多毛類などを食べる。メスの成長が早く 3 歳で 30 cm となる。オスは 2 歳で成熟する(図 1)。

【漁法と盛漁期】

主に底曳網で漁期(9 月～翌年 6 月)を通して周年漁獲されるほか、延縄や固定式刺網(建網)でも漁獲されている。

【利用】

夏に旬を迎え、活魚は刺身用として高値取引されるほか、産卵期の冬には子持ちが煮つけなどに利用される。

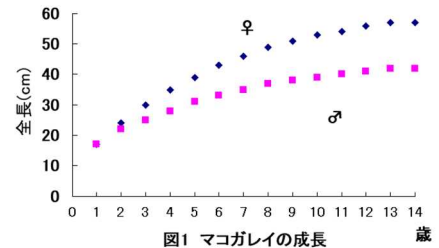


図1 マコガレイの成長

新規加入少なく、資源は低位・減少

(漁獲量) H 元年以降、漁獲量は周期的な増減がみられたが、H18 年の 185 トンをピークに減少傾向が続いており、R6 年は 0.8 トンとなっている(図 2)。

(加入量) 近年、稚魚のまとまった加入は確認されていない。

(水準と動向) 資源水準は、過去の底曳網の漁獲量から計算した CPUE (kg/隻・日) の推移から「低位」、動向は直近 5 年間の CPUE の傾向から「減少」とした(図 3)。

水 準



動 向

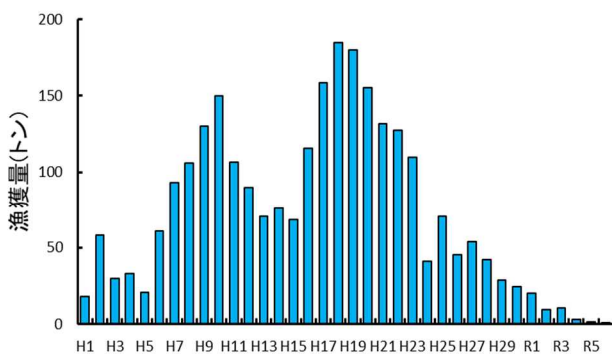


図2 マコガレイの漁獲量(水試システム、属地)

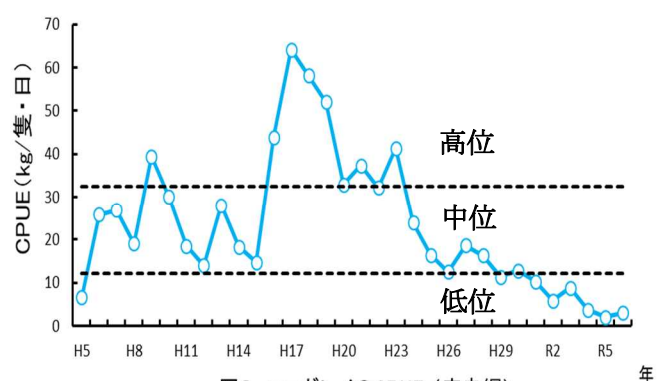


図3 マコガレイのCPUE(底曳網)

【全国の漁獲動向】

本種のための全国統計はない。カレイ類全体での主な産地は、北海道、島根、兵庫などであり、大分県では城下カレイとしてブランド化されている。